

# 京大 広報

KYOTO UNIVERSITY

2021.11  
No. 759



## 目次

### [大学の動き]

- 副学長が発令される ..... 5600
- 理事補が発令される ..... 5600
- 部局長の交替等 ..... 5600
- 名誉教授の称号を授与 ..... 5601
- 令和3年度大学院秋季学位授与式を挙行 ..... 5601
- 令和3年度大学院秋季入学式の祝辞を配信 ..... 5606
- 「湯川秀樹旧宅」が本学に寄附 ..... 5608
- 「アニュアルレポート2021」を発行 ..... 5609
- 株式会社ダイセルとの包括連携協定調印式ならびに  
産学共同研究部門設置についての記者発表を実施 ..... 5610

### [部局の動き]

- 医学部附属病院先端医療研究開発機構 (iACT) の  
パンフレットをリニューアル ..... 5612
- 第14回次世代グローバルワークショップを開催 ..... 5613

### [寸言]

- 先人のエピソードを未来に 太田 裕朗 ..... 5614

### [随想]

- 優秀な外科医とは: 「水影心」を会得せよ ..... 5615  
名誉教授 小川 修

### [洛書]

- 人文学主導型の文理融合研究で人文科学不要論を  
超える 熊谷 誠慈 ..... 5616

### [探訪]

- 生存圏研究所信楽MUリーダー  
～広報課員が行く～ ..... 5617

### [榮譽]

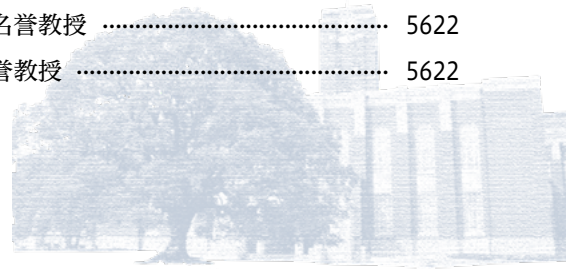
- 望月拓郎 数理解析研究所教授が数学ブレイク  
スルー賞を受賞 ..... 5620

### [訃報]

- 岐美 格 名誉教授 ..... 5621
- 中村 賢二郎 名誉教授 ..... 5622
- 粟倉 泰弘 名誉教授 ..... 5622



京都大学



大学の  
動き

## 副学長が発令される

10月1日付けで副学長が任命されました。任期は令和4年9月30日まで。



法務・コンプライアンス担当  
北村 雅史（新任）

[目次に戻る ↗](#)

## 理事補が発令される

【任期：令和3年10月1日～令和4年9月30日】

（補佐する理事）

総務担当理事	笠井 正 俊	法学系（大学院法学研究科）教授	（新任）
--------	--------	-----------------	------

[目次に戻る ↗](#)

## 部局長の交替等

（新任）

### 野生動物研究センター長

伊谷原一 霊長類野生動物学系（野生動物研究センター）教授が、村山美穂 野生動物研究センター長の後任として選出されました。任期は令和3年10月16日から令和5年3月31日まで。



### 大学院教育支援機構長

江上雅彦 経済学系（大学院経済学研究科）教授が、大学院教育支援機構長に指名されました。任期は令和3年10月1日から令和4年9月30日まで。



（再任）

### 医学研究科長・医学部長

岩井一宏 基礎・社会医学系（大学院医学研究科）教授が、医学研究科長・医学部長に再任されました。任期は令和3年10月1日から令和4年9月30日まで。

[目次に戻る ↗](#)

## 名誉教授の称号を授与

10月1日付けで次の1名に京都大学名誉教授の称号が授与されました。

氏名	推薦部局
福田 和彦	医学研究科

(人事部(人事企画課))

[目次に戻る ↗](#)

## 令和3年度大学院秋季学位授与式を挙行

9月24日(金)、百周年時計台記念館百周年記念ホールにおいて、湊 長博 総長、理事・副学長をはじめ、各研究科長、学館長、学舎長、教育部長、卓越大学院プログラムコーディネーター出席のもと、大学院秋季学位授与式を挙行了しました。

今回の大学院秋季学位授与式の対象は、令和3年5月24日付け授与の課程博士38名、論文博士9名の計47名、同7月26日付け授与の課程博士42名、論文博士6名の計48名、同9月24日付け授与の修士課程95名、専門職学位課程2名、課程博士121名、論文博士13名の計231名、合計326名です。

課程博士のうち博士課程教育リーディングプログラムの受講生1名、卓越大学院プログラムの受講生1名が修了しました。



学位記を手渡す湊総長



式典の様子



大学の  
動き

湊総長から、代表者に対し学位記が手渡された後、総長の式辞をもって終了しました。  
各分野別内訳は次のとおりです。

修士

学位名	2021年9月24日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
修士（文学）	1	1	2	1	1	2	5,375
修士（教育学）	0	0	0	0	0	0	1,628
修士（法学）	0	0	0	0	0	0	1,544
修士（経済学）	1	10	11	1	10	11	2,006
修士（理学）	9	4	13	9	3	12	11,819
修士（医科学）	0	0	0	0	0	0	408
修士（人間健康科学）	0	0	0	0	0	0	679
修士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	645
修士（工学）	1	2	3	0	0	0	34,661
修士（農学）	9	11	20	7	9	16	11,286
修士（人間・環境学）※1	0	0	0	0	0	0	3,784
修士（エネルギー科学）	7	2	9	4	1	5	2,915
修士（地域研究）※2	3	2	5	0	0	0	448
修士（情報学）	13	3	16	9	2	11	4,018
修士（生命科学）	3	5	8	3	5	8	1,607
修士（総合学術）※2	0	0	0	0	0	0	54
修士（地球環境学）	5	3	8	4	3	7	703
修士（社会健康医学）	-	-	-	-	-	-	66
修士（薬学）	-	-	-	-	-	-	2,299
総計	52	43	95	38	34	72	85,945

※留学生は在留資格「留学」のみの数

※1：修士（人間・環境学）は、累計に一貫制博士課程の修士修了相当授与者9名を含む

※2：修士（地域研究）および修士（総合学術）は、一貫制博士課程の修士修了相当授与者のみ

修士（専門職）

学位名	2021年9月24日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
社会健康医学修士（専門職）	0	0	0	0	0	0	522
公共政策修士（専門職）	2	0	2	0	0	0	567
経営学修士（専門職）	0	0	0	0	0	0	1,088
総計	2	0	2	0	0	0	2,177

大学の  
動き

法務博士（専門職）

学位名	2021年9月24日付授与者数			左記のうち留学生数			累計
	男	女	計	男	女	計	
法務博士（専門職）	0	0	0	0	0	0	2,519
総計	0	0	0	0	0	0	2,519

博士

■課程博士 令和3（2021）年5月24日付け，7月26日付け，9月24日付け

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年5月			2021年7月			2021年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1,174
	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	
博士（教育学）	0	0	0	2	0	2	2	1	3	5	266
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	393
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（経済学）	0	0	0	1	0	1	2	1	3	4	726
	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3	
博士（理学）	5	0	5	5	1	6	11	2	13	24	5,828
	0	0	0	1	1	2	8	2	10	12	
博士（医学）	13	5	18	14	2	16	5	5	10	44	10,520
	2	4	6	2	0	2	1	0	1	9	
博士（医科学）	0	0	0	2	0	2	0	1	1	3	131
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（社会健康医学）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	117
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間健康科学）	0	1	1	1	0	1	0	0	0	2	93
	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1,157
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	1	0	1	0	0	0	2	0	2	3	145
	1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	
博士（工学）	2	1	3	6	0	6	35	7	42	51	6,309
	0	1	1	2	0	2	24	7	31	34	
博士（農学）	1	0	1	1	0	1	9	4	13	15	3,118
	1	0	1	0	0	0	7	2	9	10	

大学の  
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年5月			2021年7月			2021年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（人間・環境学）	2	1	3	1	2	3	2	1	3	9	1,011
	2	0	2	1	0	1	0	0	0	3	
博士（エネルギー科学）	3	0	3	0	1	1	5	1	6	10	430
	1	0	1	0	1	1	3	1	4	6	
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	289
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（情報学）	2	0	2	1	1	2	8	3	11	15	780
	2	0	2	1	1	2	2	3	5	9	
博士（総合学術）※1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	0	0	0	0	1	1	2	3	5	6	466
	0	0	0	0	1	1	1	2	3	4	
博士（総合学術）※2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地球環境学）	0	0	0	0	0	0	3	2	5	5	217
	0	0	0	0	0	0	2	1	3	3	
博士（経営科学）	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	18
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計	29	9	38	34	8	42	86	35	121	201	33,211
	9	5	14	8	4	12	51	20	71	97	

※1：情報学研究科修了 ※2：総合生存学館修了

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

■論文博士

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年5月			2021年7月			2021年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（文学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	653
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（教育学）	1	0	1	0	0	0	1	0	1	2	178
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（法学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	202
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（経済学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	407
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

大学の  
動き

学位名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年5月			2021年7月			2021年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
博士（理学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	1,576
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（医学）	4	0	4	3	1	4	8	0	8	16	2,241
	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	
博士（医科学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	7
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（社会健康医学）	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	16
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間健康科学）	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	8
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	773
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（薬科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（工学）	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	4,195
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（農学）	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	2,898
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（人間・環境学）	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	55
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（エネルギー科学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	64
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地域研究）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	30
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（情報学）	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	96
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（生命科学）	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	26
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
博士（地球環境学）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計	8	1	9	4	2	6	13	0	13	28	13,444
	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

大学の  
動き

■博士課程教育リーディングプログラム（博士課程内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年5月			2021年7月			2021年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
京都大学大学院思修館	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	24
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
グローバル生存学大学院連携プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	47
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
充実した健康長寿社会を築く総合医療開発リーダー育成プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
デザイン学大学院連携プログラム	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	26
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	18
	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	
総計	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	140
	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

■卓越大学院プログラム（博士課程内数）

プログラム名	学位授与者数（下段は留学生の内数）									総計	累計
	2021年5月			2021年7月			2021年9月				
	男	女	中計	男	女	中計	男	女	中計		
先端光・電子デバイス創成学	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	3
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
メディカルイノベーション	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総計	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	3
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

（教育推進・学生支援部（教務企画課））

[目次に戻る ↗](#)

令和3年度大学院秋季入学式の祝辞を配信

今年度の大学院秋季入学式について、新型コロナウイルス感染症の影響で渡日できない留学生が多いため、式典は執り行わず、湊 長博 総長の祝辞をインターネットで配信することとしました。

今回の大学院秋季入学者は、修士課程78名、専門職学位課程6名、博士後期課程124名、



大学の  
動き

合計208名です。各分野別内訳は次のとおりです。

令和3年秋季 修士課程入学者数

区 分	入 学			左記のうち留学生数		
	男	女	計	男	女	計
経済学研究科	7	8	15	4	4	8
理学研究科	8	3	11	7	3	10
工学研究科	0	1	1	0	1	1
農学研究科	7	5	12	6	2	8
エネルギー科学研究科	5	2	7	4	1	5
情報学研究科	15	3	18	12	2	14
生命科学研究科	4	4	8	4	3	7
地球環境学舎	1	5	6	1	3	4
総 計	47	31	78	38	19	57

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

令和3年秋季 専門職学位課程入学者数

区 分	入 学			左記のうち留学生数		
	男	女	計	男	女	計
医学研究科	1	1	2	0	0	0
経営管理教育部	3	1	4	0	0	0
総 計	4	2	6	0	0	0

※留学生数は在留資格「留学」のみの数

令和3年秋季 博士（後期）課程入学者数

区 分	進 学		編入学		総 計	
	男	計	男	計	男	計
	女		女		女	
経済学研究科 博士後期課程	0 (0)	1 (1)	2 (2)	5 (5)	2 (2)	6 (6)
	1 (1)		3 (3)		4 (4)	
理学研究科 博士後期課程	7 (7)	8 (8)	4 (3)	10 (8)	11 (10)	18 (16)
	1 (1)		6 (5)		7 (6)	
工学研究科 博士後期課程	0 (0)	0 (0)	26 (12)	31 (15)	26 (12)	31 (15)
	0 (0)		5 (3)		5 (3)	
農学研究科 博士後期課程	4 (4)	11 (9)	4 (1)	9 (3)	8 (5)	20 (12)
	7 (5)		5 (2)		12 (7)	
エネルギー科学研究科 博士後期課程	3 (2)	4 (3)	10 (8)	12 (10)	13 (10)	16 (13)
	1 (1)		2 (2)		3 (3)	

大学の  
動き

区分	進学		編入学		総計	
	男 女	計	男 女	計	男 女	計
情報学研究科 博士後期課程	2 (2)	3 (3)	13 (3)	18 (4)	15 (5)	21 (7)
	1 (1)		5 (1)		6 (2)	
生命科学研究科 博士後期課程	1 (1)	3 (3)	2 (2)	4 (4)	3 (3)	7 (7)
	2 (2)		2 (2)		4 (4)	
地球環境学舎 博士後期課程	1 (1)	1 (1)	2 (2)	4 (4)	3 (3)	5 (5)
	0 (0)		2 (2)		2 (2)	
総計	18 (17)	31 (28)	63 (33)	93 (53)	81 (50)	124 (81)
	13 (11)		30 (20)		43 (31)	

※ ( ) 内は留学生数を示し、在留資格「留学」のみの数

(教育推進・学生支援部(教務企画課))

[目次に戻る](#)

## 「湯川秀樹旧宅」が本学に寄附

日本人初のノーベル賞受賞者である湯川秀樹博士が晩年を過ごした「湯川秀樹旧宅」(京都市左京区)が、株式会社長谷工コーポレーションより、本学の教育・研究等の諸活動を支援するため、8月27日(金)に寄附されました。

旧宅は昭和8年建築の木造建築で、昭和32年頃から湯川博士が家族と住み、晩年の約24年間を過ごしました。敷地の半分以上を占める庭には、桜やモミジなど季節を感じさせる木々が配置され、博士はこの庭を愛でながら、自宅を訪れた研究者や弟子たちと交流を深めました。

長谷工コーポレーションが、湯川博士のご親族から引き渡しを受け、このたび、本学にご寄附いただきました。今後は、国内外から訪れる研究者の交流サロンなど、利用計画について検



左から平井理事、西川執行役員、安藤氏、湊総長



スケッチ画を前に、設計への思いを話す安藤氏(右)と湊総長



会見で記者からの質問に答える安藤氏(右から2人目)

大学の  
動き

討を進め、建築家 安藤忠雄氏の設計により、長谷工コーポレーションに整備をいただく予定で、令和5年の完成を目指します。

9月15日(水)に開催した記者会見で、湊 長博 総長から、長谷工コーポレーションや安藤氏、湯川博士のご親族の本学に対する深いご理解と格段のご支援に対して、お礼が述べられました。また、平井明成 理事が、



湯川博士が晩年を過ごした旧宅

寄附の経緯や今後の予定について説明し、本学が来年、創立125周年を迎えることにふれ、「125周年を起点として、新たなスタートを切るにふさわしい事業を進めたい」と話しました。さらに、安藤氏が描いたスケッチ画も披露され、安藤氏は「残せるものは残し、自然との調和を大切にしたい」と話し、長谷工コーポレーションの西川典男 執行役員も「科学の発展に貢献された湯川先生の功績を後世に残したい」と述べられました。

(施設部(施設企画課))

[目次に戻る](#)

## 「アニュアルレポート 2021」を発行

2021年10月、財務・非財務情報を統合的に報告する「アニュアルレポート<sup>※1</sup> 2021」を発行・公開しました。

本学では2017年度より、国際統合報告評議会 (IIRC)<sup>※2</sup> が提唱する国際統合報告フレームワークを参考にし、決算情報のみならず、本学のガバナンス体制の紹介やガバナンスの強化・充実に向けた取り組み、持続的な価値創造に向けた取り組みを統合的に紹介するなど、アニュアルレポート(旧:財務報告書 Financial Report)の進化に努めています。

今回で17回目の発行となるアニュアルレポート2021の編集にあたっては、①本学を取り巻く環境や運営方針を整理して幅広い読者の皆さまに発信すること、②支援者の皆さまに本学の特色ある活動を深く理解していただくこと、③支援者の皆さまに中長期にわたる持続的な価値の向上を目指す本学の可能性を理解していただくこと、の3点を特に重視し、詳細情報へのリンクを付すなどにより本学の活動を分かりやすく発信することを心がけています。

また、本学の活動や財務状況の要点を簡潔に記したダイジェスト版と英語版を前回に引き続き発行・公開しました。さらに、本学の最新の状況や教育研究等の基礎的な情報を紹介している「京都大学概要」



総長メッセージ



## 大学の 動き



左から、アニュアルレポートと京都大学概要と環境報告書

や本学の環境配慮活動を総括した「環境報告書」との有機的連携を図るため、表紙のデザインに統一性を持たせています。

本学は、アニュアルレポートを通じて、支援者の皆さまに、本学の業務運営の姿勢や取り組みに対する理解を深めていただくとともに、持続的な価値の向上に向けた対話につなげていきたいと考えています。そのためにも、支援者の目線に立つことを念頭に置きつつ、引き続き内容の充実にも努めていきます。

※1 今回より財務情報と非財務情報をあわせて開示する報告書としての位置付けを明確にするため、「京都大学 アニュアルレポート」に名称変更しました。

※2 国際的な企業報告フレームワークの開発を目指して、規制当局・投資家・民間企業・基準設定機関・会計士団体・NGO等によって設立された民間団体。

(財務部(監理課))

[目次に戻る ↗](#)

## 株式会社ダイセルとの包括連携協定調印式並びに産学共同研究部門設置についての記者発表を実施

本学と株式会社ダイセルは、木材や農水産廃棄物などのバイオマスを高機能な材料や化学品に変換し、その価値を森林の再生や、農水産廃棄物の高付加価値利用に還元することにより、森、川、海、農山漁村、都市を再生し、自然と共生する低炭素社会の実現、新産業創出などに寄与することを目的とした、包括連携協定を締結しました。

さらに本包括連携協定のもと、バイオマスの新しい変換プロセス「新バイオマスプロダクトツリー」実現に向けた研究開発と持続的循環利用を共通テーマとした基礎的研究と研究成果の社会への還元を目指し、本学の農学研究科、人間・環境学研究科、化学研究所、



小河義美 株式会社ダイセル代表取締役社長、湊 長博 総長

## 大学の 動き

エネルギー理工学研究所および生存圏研究所とダイセルのResearchセンター間において、包括的研究連携協定を締結しました。

また、国内外の多様な分野から優秀な人材が集い、学術分野、産業界、地域を繋ぐハブとして機能する産学連携共同研究の拠点「バイオマスプロダクトツリー産学共同研究部門」を京都大学宇治キャンパス内に、生存圏研究所、化学研究所、エネルギー理工学研究所とダイセルの共同ラボとして設置しました。

共同研究中の新技術では、木材に限らず、農林水産業の廃棄物からも有益な成分の抽出が可能です。有価で処分される素材を二次産業の原料として活用することで、一次産業の経済性を向上させ、一次産業と二次産業に循環を生む新しい「産業生態系」の構築が可能になります。

この経済循環によって、林業を復活させ森を再生するとともに、山・川・海を含む自然の生態系の回復にも寄与する、という考えである「バイオマスバリューチェーン構想」を、産学官の垣根を越えて、実現に向けて取り組んでいきます。



左から、阿曾沼慎司 オープンイノベーション機構長、室田浩司 産官学連携本部長、時任宣博 理事・副学長、湊総長、小河代表取締役社長、高部昭久 取締役、山根 啓 執行役員



(後列左から) 渡辺隆司 生存圏研究所教授、小島泰雄 人間・環境学研究科 教授、澤山茂樹 農学研究科 教授、塩谷雅人 生存圏研究所教授、森井 孝 エネルギー理工学研究所教授、辻井敬亘 化学研究所教授、浅井種美 バイオマススマートチェーン推進プロジェクトリーダー

(前列左から) 時任理事・副学長、湊総長、小河代表取締役社長、高部取締役、山根執行役員

(研究推進部(産官学連携課)、オープンイノベーション機構)

[目次に戻る ↗](#)





## 医学部附属病院先端医療研究開発機構(iACT)のパフレットをリニューアル

医学部附属病院先端医療研究開発機構(iACT)は、機構紹介パンフレットをリニューアルしました。

iACTは、2020年4月に医学部附属病院の5つの臨床研究関連組織(臨床研究総合センター、先端医療機器開発・臨床研究センター、先制医療・生活習慣病研究センター、クリニカルバイオリソースセンター、次世代医療・iPS細胞治療研究センター)を発展的に改組することにより設置した臨床研究支援組織です。

世界最先端の研究シーズを一気通貫でスピーディーに臨床応用に結びつけることで、わが国の医薬品・医療機器開発の加速に多大な成果をもたらす拠点として組織しました。本機構では、組織運営に当たって三つの方針を掲げています。

一つ目は「研究活性化」(Science)で、本学の強みを生かした研究開発の促進、迅速な意思決定に基づく戦略的研究支援を目指しています。二つ目は「財政自立化」(Finance)で、時限的な公的研究費依存から脱却し、業務の効率化を図るとともに、学内外リソースの活用と企業治験収入の増加による自立化を目指しています。三つ目は「人材力強化」(Human Resources)で、支援人材の実践型育成による人材強化と、長期的視野に立った継続的な人材確保・育成を目指しています。

このような方針に基づいて臨床研究を支援し、医学研究の成果をできるだけ早く、また確実に患者の皆さんのもとへ届けられるように努力していきます。

### 【関連リンク】

医学部附属病院 先端医療研究開発機構(iACT) パンフレット

[https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/inline-files/2021\\_ACTpamphlet-2a5f52d83a218775797f13ce5d235fbb.pdf](https://www.kyoto-u.ac.jp/sites/default/files/inline-files/2021_ACTpamphlet-2a5f52d83a218775797f13ce5d235fbb.pdf)

医学部附属病院 先端医療研究開発機構

<https://iact.kuhp.kyoto-u.ac.jp/>



iACT 全景



パンフレット

(医学部附属病院)

[目次に戻る ↗](#)

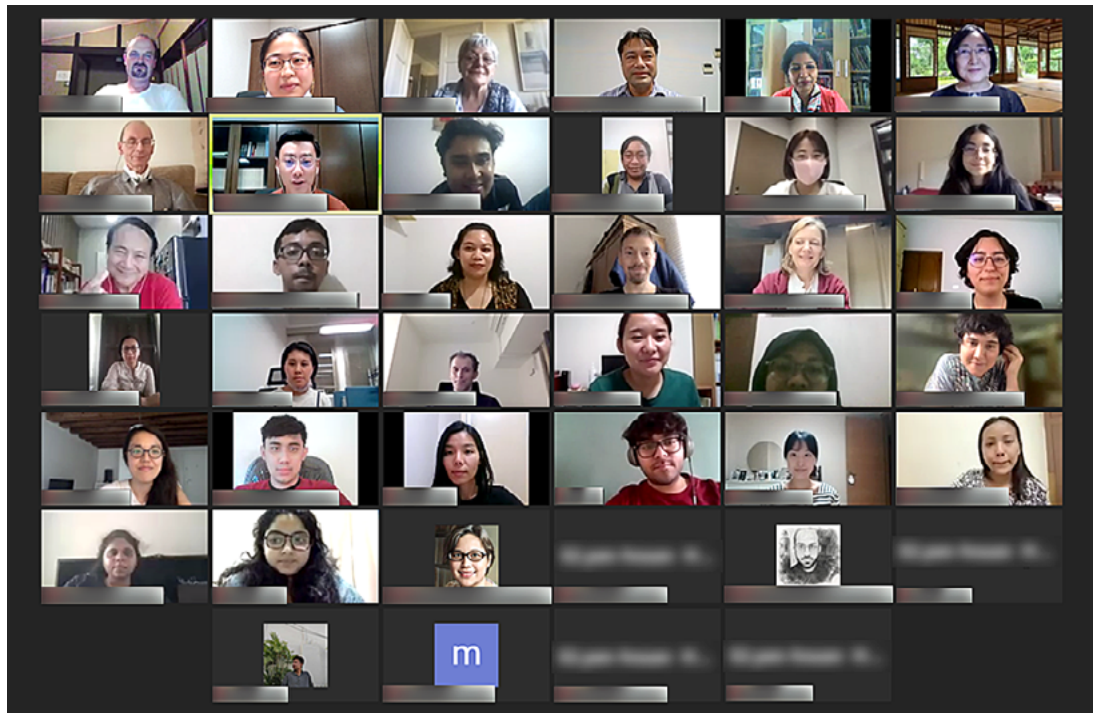


## 第14回次世代グローバルワークショップを開催

9月25日(土)と26日(日)の両日、第14回次世代グローバルワークショップを開催しました。今年度は「New Normal Lifestyles during/post-COVID-19: from Crisis to Opportunity」をテーマに掲げ、昨年度に引き続き、オンラインでの開催となりました。昨年度はベトナム社会科学院主催で開催されたため、京都大学でのオンライン開催は初めての試みとなりました。

初日は落合恵美子 アジア教育研究ユニット長や河野泰之 副学長より挨拶があり、基調講演の後、2つの分科会に分かれて「コロナ禍における教育」「ポストCOVIDワールド」「都市と農村開発」「ガバナンスと公共政策」など多岐にわたるテーマで、合計38名の若手研究者による報告が行われました。わが国のほか、中国、インド、イタリア、ハンガリーなど合計14カ国から、各分会合わせて延べ70名が参加しました。最終日のWrap Up Sessionでは参加者からさまざまな意見が寄せられ、コロナ禍において対面で集まることができない中、世界各国の教員や若手研究者からの意見を聞くよい機会となったとの高い評価が得られました。

アジア研究教育ユニットでは、引き続き次世代の研究者が英語で学術交流を行いやすい環境づくりに尽力し、このワークショップをきっかけに、多くの若手研究者が世界に羽ばたいていくことを願います。



参加者の集合写真

(大学院文学研究科)

[目次に戻る ↗](#)

## 先人のエピソードを未来に

太田 裕朗



少し前、友人とオックスフォード大学を訪れた。有名なハリー・ポッターの映画のロケ地で知られるクライストチャーチの大食堂は、オックスフォードが輩出した偉人の肖像画が数多並んでいることで有名である。別の場所では、アインシュタインの筆跡が残る黒板など、科学の発展のワンシーンを偲ぶ展示がある。図書館もツアー見学可能で、今の天皇がお過ごしになったとのエピソードも残る。まるで歴史博物館に来ているような感覚を得るが、観光客向けというわけではなく、何かを学び、成さんとする人に対し、示唆を与えることが目的のように感じた。人物の固有名詞が主役であって、その人固有のエピソードを伝えようとしているように感じた。

私自身は、1995年に京都大学工学部に入学し、核融合分野の著名な理論物理学者である若谷誠宏教授の門下に入り、宇治キャンパスで過ごした。博士最終年に進むころ、そろそろ研究をまとめてくださいね、と年の瀬に笑顔でお話しておられた教授が年明け突然急逝された。私の人生の悲しみと転機となった。大学の法人化に奔走されていたと聞いたが、そんなことは学生の私は何も知らなかった。先生が存命なら国際核融合炉の建設は日本の地であったはずだという声も耳にした。その後、民間企業、京大航空宇宙工学科の助教、米国UCSB中村修二教授の研究室、と環境を変えて研究を行った。米国の教授たちがベンチャーを経営するのを日常的にみて、研究とその外側の世界のつながりを発見した。

その後、経営コンサルを経て、数年前、千葉大の教授が創業したドローンベンチャーの経営を任せられ、2018年にIPOに導いた。縁は不思議で、今では日本ドローン産業への貢献が私の肩書になっている。この年IPOをしたベンチャー約100社の中で、社長=京大出身、社長=理系博士は、ともに私が唯一だったと聞く。最近、ドローンに関する講演では、ドローン事業の話よりも、会社の経緯、私が参画した縁、というような質問を頂く。そんな裏話だったので、と、ドローンの話よりもそのエピソードの方が勉強になるという。

私が京都大学に入学した頃の工学部の教室には、歴代教授の肖像画があり、オックスフォードで得た感覚に近いものはあった。しかし、近年、本部吉田でもビルが立替えられ、桂キャンパスには新しい建物並び、そこには、最新の研究発表、連携企業の入所など、産学連携PRは数多並んでいるが、オックスフォードのような切り口の先輩方の足跡をみせる展示は少ない。私が慕った若谷教授の源流は、エネルギー問題を危惧した湯川教授の提言に遡るというが、もともと伝承の話ではあるが、当然知る由もない。

新しいものに加え、京大の先輩の様々な足跡も、未来の学生のヒントにつながるのではないだろうか。京大の先人の軌跡、歴史話をもっともっと伝承していけないものだろうか。

(おおた ひろあき, 株式会社ACSL(旧社名:株式会社自律制御システム研究所) 取締役会長,  
平成11年工学部卒業, 平成16年大学院エネルギー科学研究科修了)

[目次に戻る ↩](#)



## 随想

優秀な外科医とは：  
「水影心」を会得せよ

名誉教授 小川 修



40年前になりますが、京都大学医学部の卒業を前に進むべき専門の診療科を選ぶ必要がありました。医師となる限りはメスをもって患者さんを救いたいという気持ちがあり、所属していた医学部ラグビー部の顧問が泌尿器科の教授（現天理医療大学学長：吉田修先生）という縁もあって泌尿器科を選択しました。以来、外科医として泌尿器科診療に携わってきましたが、外科医という技術系プロフェッショナルがどうあるべきかを常に考えてきました。世の中にはプロスポーツを含め、たくさんの技術系のプロがあります。その中で、外科医というプロには「極めて練習がしにくい」という特殊性があります。外科医教育において“See One, Do One, Teach One.”という言葉がありますが、「少ない経験でも人に教えられるくらいのレベルに達しなさい。」という外科医の特殊性をうまく表現した名言です。

「スーパードクター」としてテレビなどで紹介される医師のなかで経験症例数を自慢する外科医を時々みかけます。しかし、私が知っている優秀な外科医には症例数を自慢する医師はいません。マイナー外科といわれる泌尿器科ですら、上は腎臓、下は精巣、陰茎まで、泌尿器科医が行う手術の種類を数えるとゆうに100は超えると思います。その一つ一つを数十という単位で経験することなどとうてい不可能です。また、時には見た事も無いような巨大な腫瘍（お腹の奥のほうに出来る悪性の肉腫などです）を、これまでの経験を総動員させて手術しなくてはならない場合もあります。私自身、経験数の重要性を否定する訳ではありませんが、真に優秀な外科医は、少ない経験でも見事なパフォーマンスを発揮しているのです。

それでは、優秀な外科医になるにはどうしたら良いか。これは私自身への戒めでもありますが、一つ一つの症例経験から最大限の自己フィードバックを行う努力をすること。他人の経験でさえ自分のものとして消化出来る感性を持つこと。そして、同じ過ちを決してしない覚悟を持つことだと思います。

私が研修医の頃、少年雑誌に連載されていたアニメ「北斗の拳」を毎週楽しみに読んでいました。このアニメの主人公、ケンシロウの使う奥義のひとつに「水影心（すいえいしん）」があります。この奥義は一度戦った相手の技を次からは自分のものとして使うことが出来るというもので、まさしく外科医が身につけるべき技です。教授就任以来、若い泌尿器科医には「水影心を会得しなさい。」と言い続けてきました。最近は手術用シミュレータの開発も進み、“See One, Do One, Teach One.”から“See One, Simulate Many, Do One, Teach One.”と言われるようになってきています。しかし、今後も外科医にとっての「水影心」の重要性は、決して色あせることは無いでしょう。

（おがわ おさむ、令和3年退職、元大学院医学研究科教授、専門は泌尿器科学）

[目次に戻る ↗](#)

## 洛書

人文学主導型の文理融合研究  
で人文科学不要論を超える

熊谷 誠慈



近年の「人文科学不要論」により、人文学の研究者は逆風にさらされています。私の研究分野は、人文学の中でも超マイナーで、「不要の中の不要」といった位置づけにあります。そんな研究でも無慈悲に切り捨てない京都大学の懐の広さが私は大好きです。

私は、実家のお寺の跡を継ぐために京大で仏教学を専攻し、学部時代にはインド仏教、修士課程ではチベット仏教、博士課程からはチベットの土着宗教であるボン教と、どんどんマイナーな領域（よく言えばパイオニア領域）に入り込んでいきました。

しかし、こうした基礎研究はすぐには社会の役に立たないし、お寺の仕事にすら直接は使えない。まさに、人文科学不要論の壁を痛感していた頃、助教になるタイミングで始めたブータン研究が一つの転機となりました。

当時、国内にブータン研究者が少なかったこともあり、様々な分野を独学していく中で多くの発見がありました。そもそもブータンは、仏教なくして成立しえない国。国是のGNH（Gross National Happiness＝国民総幸福）も、仏教哲学の影響を強く受けています。ブータンの研究を進めるうちに、仏教の本質は「幸せになるための教え」であり、それを生かすことが、自分の研究を社会に役立てる突破口になるのではと考えました。

数年前、青蓮院門跡（京都の天台宗寺院）の東伏見光晋執事長からの依頼で、仏教離れを止める手立てについて定期的に議論を重ねてきました。日本仏教復興のためには、仏教の本質を取り戻す必要がある。では、多くの人々に2500年前の仏教の叡智に直接ふれて頂くにはどうすれば良いか。その際、AI（人工知能）に着目しました。AIの理解を深めるうちに、ブッダの知性そのものをAIで復元することは困難であっても、ブッダに似た説法をするチャットボット（対話型AI）なら作れそうだとわかりました。

その後、AI開発者の古屋俊和氏を加え、最古の仏教経典『スッタニパータ』を人工知能に機械学習させ、ユーザーからの質問に回答する仏教対話AI「ブッダボット」を開発しました。

ブッダボットと並行して、大阪大学の三浦典之氏、京都大学の栗野皓光氏、上田祥行氏らとともに、サイキ・ナビゲーション・システム（PNS）という、こころを理想状態に導くテクノロジーを開発中です。PNSは、こころや体の状態をセンサーやAI技術で推定し、五感等を刺激するアクチュエーター（駆動装置）を使い、こころを理想的な状態に導くという新たなテクノロジーです。

その際、こころの理想状態を定義する、仮の基準として伝統知（宗教や哲学など）を用いることにしました。そのためには伝統知を感覚的なものではなく、定量化する必要があります。そこで、ブッダボットの技術を応用し、伝統知のDX、更にはAIとの融合を試みています。

人文科学主導で、伝統とサイエンスを融合し新たなテクノロジーを作る。こうした取り組みが広がっていけば、物質的拡張全盛の世にあっても、人文学の意義を再認識してもらえませんか。

（くまがい せいじ、こころの未来研究センター准教授、  
専門は仏教学（インド・チベット・ブータン） およびボン教研究）

[目次に戻る ↗](#)



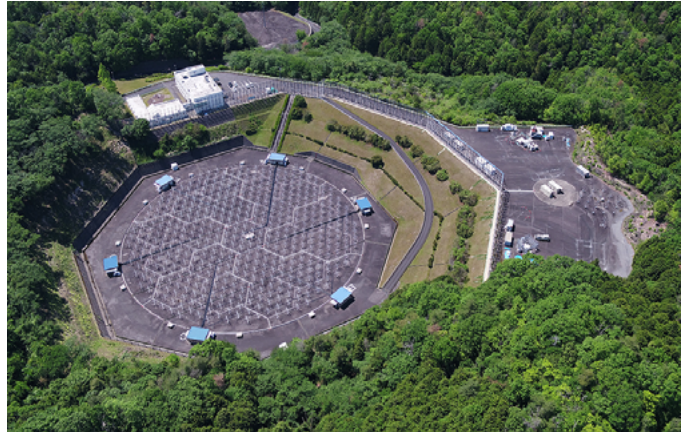
探訪

このコーナーでは、職員が本学の研究施設等に実際に足を運び、現場での取り組みや職員が感じたことをレポート形式で不定期にお伝えしていきます。

## 生存圏研究所信楽 MUレーダー

～広報課員が行く～

愛らしいたぬきの焼き物で有名な陶器の町・滋賀県甲賀市信楽町の山奥。直径約100メートルもの開けた土地に、475本のアンテナがずらりと並ぶ。生存圏研究所の信楽 MU 観測所が持つアジア最大級の大型大気観測レーダー「MUレーダー」だ。アンテナ1本1本に取り付けられた小型半導体送受信機



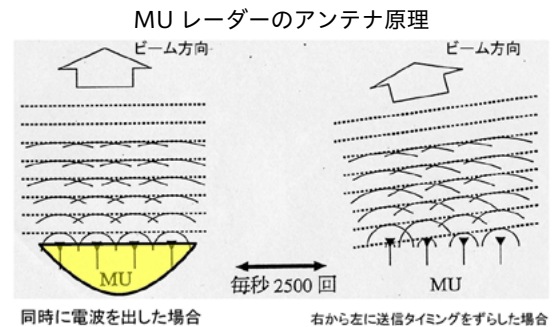
信楽 MU レーダー

から上空へ放たれるレーダービームを使って、高度2kmの対流圏から高度500kmの超高層大気(熱圏・電離圏)に至る大気の運動や循環を観測する。1984年の完成以来、全国共同利用装置として国内外の多くの研究者に利用され、超高層物理学や気象学、天文学、電気・電子工学、宇宙物理学など広範な学問分野にわたって多くの研究成果を生み出してきた。

今回は、生存圏研究所の協力のもと、10月23日に開かれた見学ツアーに同行取材させてもらった。

MUレーダーは1984年、三菱電機株式会社との産学連携で設置された。「中層大気 (Middle Atmosphere)」と「超高層大気 (Upper Atmosphere)」を観測するため、それぞれの英語表記の頭文字を取り、命名されたという。

最大の特徴は、アンテナごとに取り付けた小型半導体送受信機を個別に制御できることで、上空に放つレーダービーム方向を高速で変更することが可能な点だ。巨大な一つの送信機を使う従来方式のシステムでは不可能だったという。実際に、アンテナが物理的に動くわけではないが、電波が送信されるタイミングをアンテナごとに制御することで、電波のビーム方向を変えることができ、さまざまな方角を高速に切り換えて観測可能になるという。また、設置以降も継続的に幾度ものシステム改修を経て、レーダーの機能向上が行われてきた。



今回取材で伺った見学ツアーは、全国に数多くある京都大学の教育研究施設で施設公開や公開講座などを実施する「京大ウィークス」の一環で、初回の2011年から毎年開催されている。毎年、応募開始からすぐに申込が定員に達する人気企画だという。ツアーは午前と午後の2部制で、午前の部に参加させてもらった。

取材当日は、信楽高原鉄道・信楽駅で、ツアーのために運行されていたシャトルバスに乗車。山道をバスに揺られること15分ほどで観測所に到着した。標高は約400メートル。バスを降りると、少し肌寒だったが、40名の参加者が集まっていた。

ツアーでは2班に分かれて、それぞれ観測棟内部と、観測棟外にあるMUレーダーのアンテナ

探訪

や送受信機の見学を交互に行った。

同行した班は、建物内部の見学からスタート。生存圏研究所の横山竜宏 准教授の案内で、観測所2階の「主観測室」に入った。各アンテナを制御するパソコンや機器が並べられ、「制御はインターネットを通じてリモートで行うことができる」と、横山准教授が教えてくれた。

続いて、いよいよMUレーダーのアンテナ群へ。実際に、アンテナが並ぶ敷地に足を踏み入ると、その数の多さに圧倒された。さらに、これだけ多くのアンテナに取り付けられた送受信機の一つ一つを個別に、正確に制御して動作させるのだから、その難しさと技術の高さにも驚かされる。MUレーダーの構想発表当初、その難しさを「多くの園児に右向け右をさせるようなものだ」と表現した専門家もいたというのも納得できる。

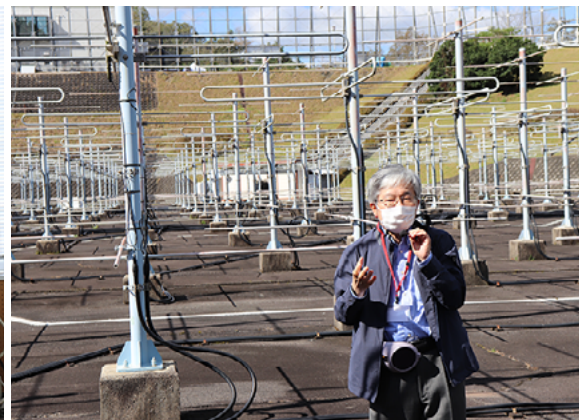
アンテナの前では、同研究所の山本 衛 教授が「それぞれのアンテナから発する電波で面を作って大気を観測する」などとレーダーについて説明し、参加者も興味深く聞き入っていた。



観測所に置かれているアンテナと信楽名物のたぬきの焼物



観測室で説明する横山准教授



MUレーダーの前で説明する山本教授

ツアーの最後には、気球にラジオゾンデという計測器をつり下げて、空に放ち、上空の気温や湿度を観測する実験が行われた。参加者の協力も得て空に放たれた気球は、風に乗ってどんどん小さくなっていった。地上に設置されたモニターには、高さや気温、風向きなど計測器からの観測データがリアルタイムで表示され、参加者が熱心に見守っていた。



気球を放球する様子



ラジオゾンデ



## 探訪

大気の観測には、実際に観測機器を上空に放って観測する方法や、人工衛星を活用した方法などもあるが、「レーダーを使った方法は、10年単位のような長期間にわたって観測を続け、データを蓄積できるメリットがある」と横山准教授は話す。また、山本教授も、「データを長期的に取り続けることにより、データベースの価値が上がる」と言う。

これまでには、1994年の台風26号が信楽上空を通過した際に、台風の断面の詳細な構造を初めて捉えることに成功した。また、近年では、無人航空機による大気の観測と、MUレーダーでの観測をあわせて、「乱流」と呼ばれる微細な大気の乱れを捉える観測が日米仏の国際共同で行われており、上空で飛行機が揺れる原因となっている乱流の詳細な構造も分かったという。

他にも、MUレーダーを活用して、宇宙ごみ（スペースデブリ）の観測に成功するなど、地球の大気と宇宙空間の境界付近を捉えようとする観測も行われているという。

2000年度末には、信楽MUレーダーの技術を活用して、インドネシアに赤道大気レーダー（EAR）が設置され、これまで観測が手薄であった東南アジア域でも大気の詳細な観測が始まった。今後、さらに高性能な赤道MUレーダー（EMU）を建設する計画もあり、「まだまだ謎が多い、熱帯域特有の大気現象を捉えていきたい」と、山本教授は語る。

近年では、異常気象や気候変動など、気象分野への注目も一層の高まりを見せる。これからも多くの研究者が気象や大気の謎に挑み続ける。

## 【関連リンク】

生存圏研究所信楽MU観測所

<https://www.rish.kyoto-u.ac.jp/mu/>

（総務部（広報課）、家城健太・藤島幸平）

[目次に戻る ↗](#)

## 栄誉

## 望月拓郎 数理解析研究所教授が数学ブレイクスルー賞を受賞

望月拓郎 数理解析研究所教授が、9月9日(木)に、2022年数学ブレイクスルー賞を受賞しました。調和束およびツイスター D 加群に関する代数幾何学と微分幾何学の両分野を横断する研究を行い、ホロノミック D 加群の研究に大きな進展をもたらしたことによるものです。

数学ブレイクスルー賞は、セルゲイ・ブリン氏 (Google の共同創業者)、マーク・ザッカーバーグ氏 (Facebook の創業者) 等を設立者とする国際的な学術賞であるブレイクスルー賞の一部門で、ユーリ・ミルナー氏の提唱により、2014年に創設されました。数学部門の受賞は日本人初です。

### 【関連リンク】

BREAKTHROUGH PRIZE

<https://breakthroughprize.org/News/65>



(数理解析研究所)

[目次に戻る ↗](#)

## 訃報

このたび、岐美 格 名誉教授、中村賢二郎 名誉教授、栗倉泰弘 名誉教授が逝去されました。ここに謹んで哀悼の意を表します。以下に各氏の略歴、業績等を紹介いたします。

## 岐美 格 名誉教授

岐美 格先生は、6月7日に逝去されました。享年94。

先生は、昭和23年3月京都大学工学部機械工学科を卒業後、同大学院を経て、同28年12月に京都大学工学部講師に採用、同31年同助教授に就任されました。同31年に京都大学工学博士の学位を授与され、その後、同33年京都大学工学研究所（現エネルギー理工学研究所）に配置換え、同36年4月に工学部教授に昇任され、以来28年間にわたって原子核工学科原子炉工学講座を担当され、多くの後進を育てて来られました。また、京都大学評議員、大学院審議会審議員、原子力研究整備委員会委員長、原子炉実験所協議員など多くの要職を歴任されました。また、京都大学の枢機に参画され、平成元年10月に京都大学名誉教授の称号を授与されました。加えて、同元年4月から6年間、松江工業高等専門学校校長を務められ、同11年にはこれまでの功績が称えられ、勲三等旭日中綬章を授与されました。



先生は、京都大学ご在職35年余りの間、常に真摯な態度と溢れる情熱、円満な人格をもって、教育および研究推進の指導的役割を果たされ、学界および産業界に幾多の優れた人材を送り出されるとともに、原子炉工学、伝熱学、熱流体工学、エネルギー変換工学などの分野の発展に大きく貢献されました。先生は常に、先見的立場から新しい学問領域の開拓と体系化、新しい発想に基づく新理論の展開、実験技術の開発とデータの集積を行い、その学問領域の広さと奥行きで世人の高い評価、深い敬意を受けておられます。

先生のご信念「研究に関して大事なことは、現象を自分の目でしっかり観察し、その中から物理を考察し、謙虚に自然を理解すること」は学内外の後進にしっかりと引き継がれています。

(大学院工学研究科)

[目次に戻る ↗](#)



## 訃報

## 中村賢二郎 名誉教授

中村賢二郎先生は、9月7日に逝去されました。享年96。

先生は、昭和23年3月に京都帝国大学文学部史学科を卒業、毎日新聞西部本社および堀川高等学校での勤務を経て、同25年9月、神戸大学文理学部助手に就任されました。同大学文学部助手、立命館大学文学部助教授を務めた後、同40年4月に京都大学人文科学研究所助教授として着任し、同52年10月に同教授に昇任、平成元年3月の停年退職に伴って同年4月に名誉教授の称号を授与されました。人文科学研究所の西洋文化研究部門に所属しつつ、京都大学大学院文学研究科において長年にわたり学生の教育・指導にも尽力されました。

先生の主たる研究分野は中世・近世ドイツ史、とりわけ宗教改革運動やドイツ領邦国家体制、都市の社会層の研究で卓抜した成果をあげられました。数多くの研究業績の中でも、昭和51年刊の『宗教改革と国家』は、政治史・思想史・社会史の手法を融合して、領邦国家の構造、領邦国家が宗教改革に果たした決定的役割、再洗礼派をはじめとする急進派の思想と行動、その社会的基盤を詳細かつ鮮やかに分析したものであり、宗教改革期のドイツに関する画期的な学術書として、高い評価を受けておられます。

人文科学研究所では、「異端運動の研究」「前近代における知識人層と社会」「前近代における社会動態」といった共同研究班に参加して中核的な役割を担い、主宰者(班長)の立場で「都市の社会史I」「都市の社会史II」を組織されました。その成果が『都市の社会史』(昭和58年)、『歴史のなかの都市』(同61年)です。

(人文科学研究所)

[目次に戻る ↗](#)



## 栗倉泰弘 名誉教授

栗倉泰弘先生は、9月28日に逝去されました。享年76。

先生は、昭和43年3月京都大学工学部冶金学科を卒業後、同45年3月同大学大学院工学研究科修士課程冶金学専攻を修了、同年4月新日本製鐵株式会社に入社、同46年4月同社を退社され、同47年4月に京都大学大学院工学研究科博士課程冶金学専攻に入学、同50年3月同課程を単位修得退学されました。その後、同51年8月京都大学工学部助手に採用され、同60年11月同講師、平成元年2月同助教授を経て、同5年8月同教授に就任、冶金学科電気冶金学講座を担当されました。この間、昭和53年5月には京都大学工学博士の学位を授与されました。平成8年4月京都大学大学院工学研究科教授に配置替え、材料工学専攻材料プロセス工学講座表面処理工学分野を担当され、同21年3月をもって京都大学を定年退職、京都大学名誉教授の称号を受けられました。

先生は、温厚篤実な人柄と、大局的な見識をもって、材料工学の材料プロセス領域の展開



## 訃報

において、とりわけ湿式製錬と湿式表面処理の物理化学と技術に指導的役割を果し、産学に活躍する多くの優秀な人材を育成されました。特に、電気化学に関する講義は大変わかりやすく好評で、定年退職後も非常勤講師として工学部の専門講義「材料電気化学」を6年間にわたって担当されました。学外においては資源・素材学会会長、日本学術振興会産学協力委員会素材プロセッシング第69委員会委員長などを務められ、産学連携活動にも尽力されました。海外においては、わが国の代表として多くの国際会議の組織委員を務められ、特に平成17年10月に京都で開催された第7回鉛-亜鉛国際シンポジウムにおいては実行委員長を務められました。

また、研究面においては、金属材料の湿式製錬、材料プロセス、表面処理の分野に関して多くの業績を挙げておられ、日本鋳業会奨励賞、村上記念奨励賞、表面技術協会賞、表面技術協会論文賞3回、資源・素材学会論文賞、日本金属学会功績賞を受賞されています。なかでも、工業電解に関する研究では、金属電解における自然対流を伴う垂直平板陰極近傍の濃度分布および陰極電流分布の理論解析を行なうとともに、自然対流の速度分布および陰極拡散相の濃度分布を精密に測定し理論解析の結果を実験的に検証されました。この研究の中でホログラフィック光干渉法による拡散層内の濃度分布の測定法を確立したことは、先駆的な研究として高い評価を受けておられます。このように、先生は約半世紀近くにわたり、湿式製錬、表面処理などの専門分野において、学問の進歩に大きく貢献されました。

(大学院工学研究科)

[目次に戻る ↗](#)

京大広報  
No.759

令和3年11月25日 発行

発行 京都大学総務部広報課  
〒606-8501 京都市左京区吉田本町  
E-mail:kohho52@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

※ご意見・ご感想をお寄せください。  
「京大広報」の既刊号は、次のURLでご覧いただけます。  
<https://www.kyoto-u.ac.jp/ja/about/public/issue/kouhou/>

京大力、新輝点。



京都大学は2022年に創立125周年を迎えます  
URL:<https://125th.kyoto-u.ac.jp>